

2018年度東京経済大学体育会

年間表彰受賞者

- 学長賞（最優秀団体賞） 1団体

ソフトテニス部

女子は、関東学生ソフトテニス春季リーグ戦1部において準優勝を果たし、その結果により、第38回全日本大学ソフトテニス王座決定戦に出場、準優勝という輝かしい成績を残した（いずれも創部以来初）。さらに第72回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権において、ベスト8。また、男女共に、第68回東日本大学対抗ソフトテニス競技大会においても、ベスト8に輝いた。

- 父母の会会長賞（最優秀個人賞） 1名（ペア）

ソフトテニス部 大滝 麻里花（2年）・上田 麗湖（2年）ペア

関東学生ソフトテニス春季リーグ戦1部において、女子準優勝の立役者となるとともに、第38回全日本大学ソフトテニス王座決定戦の準優勝にも貢献した。また、ペアとしては、関東学生選手権大会、東日本学生選手権大会、関東選手権大会一般女子において、それぞれベスト8という優秀な成績を残した。

- 体育会会長賞（優秀団体賞） 1団体

軟式野球部

東都大学軟式野球連盟春季リーグ戦において、7シーズンぶりに優勝という快挙を成し遂げた。片山大輝（2年）が本塁打王、藤原守（2年）が防御率1位、ベストナインに藤原守と堀真大（2年）が選出される。さらに13年ぶり3回目となる第41回全日本大学軟式野球選手権大会に出場し、ベスト8という輝かしい成績を取めた。

- 葵友会賞（優秀個人賞） 1名

硬式野球部 深代 将太（4年）

2018年度首都大学野球春季・秋季リーグ戦において、2部ベストナイン・二塁手（春季打率：0.357、秋季打率：0.436）に選出された。これにより、昨年春季から4シーズン連続の選出となり、チームの春季リーグ戦優勝にも貢献した。また、秋季リーグ戦においては、2部首位打者も獲得した。

- 葵体育会賞（最優秀新人賞） 1名

端艇部 田口 美里（1年）

実力者のそろそろ実業団チーム北陸電気工業株式会社からサポートメンバーとして招聘され、同チームのコックスとして出場した第96回全日本選手権大会女子エイト決勝において第3位になるという輝かしい快挙を成し遂げた。来年以降の活躍に期待がかかる。

● 敢闘団体賞 4 団体

硬式野球部

2018 年度首都大学野球連盟春季リーグ戦 2 部において、7 勝 3 敗で 9 シーズンぶり 18 回目の優勝という輝かしい成績を収めた。1 部との入替戦では残念ながら敗退したが、来年以降の 1 部昇格を大いに期待したい。

合気道部

全国連盟主催の講習会や外部道場（他大学、一般道場）での演武会・合同稽古に多数出場するなど、積極的に学外との交流に力を注ぎ、合気道の普及に貢献した。その実績が認められ、第 58 回全国学生合気道演武大会において、全国学生合気道連盟から連盟賞を授与された。連盟賞は連盟加盟 125 校のうちベスト 3 に位置づけられる特別な賞であり、創部以来、4 回目の受賞となった。

端艇部

第 40 回全日本軽量級選手権大会男子ダブルスカルで 7 位入賞、男子舵手なしペアで 8 位入賞、また女子舵手なしクォドルプルでは 5 位入賞。第 45 回全日本大学選手権大会では男子舵手なしクォドルプルも 7 位入賞。女子舵手付きクォドルプルも 7 位入賞。更には、第 59 回全日本新人選手権大会男子舵手付きフォアで 5 位入賞、同じく男子ダブルスカルで 7 位入賞という成績を収めた。今後も全日本での活躍に期待が高まる。

卓球部

2018 年度関東学生リーグ戦において、男子は春季で 3 部に降格するも秋季は 3 部優勝・入替戦勝利で 2 部に復帰、女子は春季 6 位、秋季 5 位で 2 部堅持。また、女子は、第 88 回全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部において、予選リーグを突破しベスト 32 に進出。なお、2018 年 1 月に開催された全日本卓球選手権大会には各県代表として嘉瀬なつみ（2 年）、竹内七海（3 年）、石井あみ（1 年）、高橋聖龍（1 年＝いずれも学年は当時）の 4 人が出場した。4 人同時出場は創部以来初の快挙であった。

● 敢闘個人賞 3 名（チーム）

陸上競技部 4×400m リレーチーム 村山 大樹（4 年）・山田 真樹（3 年）・吉田 隼人（3 年）・中野 裕翔（3 年）・星野 蒼太（2 年）・関口 宗平（2 年）

4×400m リレー種目において、関東学生選手権では 2 部 2 位、関東学生リレー競技会（1・2 部共通）では 5 位、日本学生選手権ではベスト 16 となり、一般、実業団も出場する第 102 回日本選手権リレー競技会の出場権を獲得。同大会では出場 25 チーム中 11 位（予選組 4 着）と惜しくも決勝への進出は逃したものの、関東 1 部校と同等の戦いをしており、来年の活躍も大いに期待したい。

卓球部 小嶋 祐太（4 年）

2018 年度秋季関東学生リーグ戦 3 部において殊勲賞を受賞し、男子の 2 部復帰に貢献した。

ハンドボール部 柴田 一樹 (3年)

2018年度秋季関東学生リーグ戦3部において50得点を記録し、得点王に輝いた。

- 奨励賞 2団体

ラグビー部

関東大学リーグ5部6部 SEVEN A SIDE において、8年ぶりの優勝を果たした。リーグ戦では、惜しくも入替戦出場のチャンスを逃したが、来年は SEVEN A SIDE で2年連続優勝、リーグ戦全勝を目標に4部への昇格が期待される。

ヨット部

男子は、第85回関東学生ヨット選手権大会予選470級において、22校中5位で2年連続決勝進出を果たし、15位と健闘した。また、女子ペア(武田・萩田組)は第27回全日本学生女子ヨット選手権関東水域選考会を突破し、2年ぶりに全日本学生女子ヨット選手権大会出場を果たした。今後、男女共に更なる活躍が期待される。

- 功労賞(3~4年生の個人) 3名

硬式野球部 宮田 純 (4年)

2018年度首都大学野球連盟春季リーグ戦において、2部最優秀選手、ベストナイン投手(防御率1.22)を獲得し、チームの優勝に貢献した。

陸上競技部 鈴木 優斗 (3年)

箱根駅伝予選会において、1時間5分20秒(ハーフマラソン)のチームトップ、自己記録を更新して、第95回箱根駅伝関東学生連合チームに選出された。第92回大会以来3年ぶりの快挙を果たす。

ラクロス部 増田 龍一 (4年)

第31回関東学生ラクロスリーグ戦3部Cブロックにおいて、12得点という優秀な成績を収め、アタックポジションでBEST12に選出された。

- 父母の会新人賞(1~2年生の個人) 3名(ペア)

端艇部 鶴見 和佳奈(1年)

第59回全日本新人選手権大会 女子シングルスカルにおいて、8位入賞という成績を果たし、今後の躍進が期待される。

剣道部 深井 天馬(2年)

第64回関東学生剣道選手権大会において、個人ベスト32となり、13年ぶりに第66回全日本学生剣道選手権大会の出場を果たした。

少林寺拳法部 佐藤 直樹(1年) 木村 龍也(1年)

第16回少林寺拳法関東学生新人大会において、未経験ながら男子白帯緑帯の部で5位入

賞を果たした。また、第 52 回少林寺拳法全日本学生大会において男子白帯緑帯の部で予選をコート 2 位で通過し、本選 12 位となった。

● マネジメント賞 4名

サッカー部 大日方 理佐 (4年)

4年間にわたりリーグ戦、参入戦、関東昇格決定戦などで躍進するチームに大きく貢献した。また東京都選抜チームのマネージャーにも選出された。

軟式野球部 高橋 沙衣 (3年) 武内 渚 (3年)

全国大会出場に際してのすべての手配や公式球変更に伴う対応を行った。また、公式ブログの内容充実や試合結果の即日掲載など情報発信にも尽力した。2人で協力し合いながら、例年以上の対応を滞りなく処理しつつ、部を支えたことはとても素晴らしく、それを評価して2人に賞を贈る。

ラクロス部 湯沢 健太 (3年)

連盟・OB・学生課と連絡を密にとり、女子ラクロスチームの発足及び連盟登録を実現させるなど、プレイングマネージャーとしての働きは特筆すべきものであった。